

橋野 これまで CT Magazine ではいろんなジャンルの方のお話を聞いてきたんですが、今回は伝統工芸、アートに携わっている方のお話を聞きしたいということでおふたりにお声がけさせていただきました。事の発端は、今年の始めに松嶺さんがトークイベントをされた時に、三田社長もお話を聞いていて感銘を受けた「自分の立ち位置を明らかにする」というフレーズでした。このフリーペーパーを作るきっかけになった言葉でもあるんですが、自分の立ち位置を明らかにした上で、問題提起などをしていくアーティストのみなさんの姿勢は、我々のような施設を運営する人間にとっても大事なキーワードなんだろうなと思っています。そうした部分について、みなさんそれぞれのポジションでどういったことに取り組んでいるのかという話を聞ければなと思っています。今日はぜひよろしくお願ひします。

---

< 対談者プロフィール >

#### 松嶺 貴幸さん

現代アート作家

雫石町生まれ。郷土民芸職人である祖母と建築家・書家・農家である祖父に影響を受けて育つ。

16歳の時、フリースタイルスキーでの転倒事故により脊髄を損傷、手足がマヒし車いすでの生活を余儀なくされるが、その事故を機に「生きる力」と「生きられる感謝」2つの心を身体に共存させるようになる。

28歳で単身アメリカ・ロサンゼルスに渡りアートの世界に飛び込む。最近では「爆破」をテーマにした爆竹を使った作品を制作。

#### 松沢 卓生さん

株式会社浄法寺漆産業 代表取締役社長

盛岡生まれ。うるしに身も心もかぶれて岩手県職員を退職、起業。

漆と名のつくものには即座に反応する。飼っている猫の名も「うるし」。趣味は読書で乱読派、積ん読派。

#### 三田 林太郎さん

三田農林株式会社 代表取締役社長・クロステラス盛岡

#### 橋野 浩樹さん

三田農林株式会社 総務・クロステラス盛岡 販促担当

#### 金野 大介さん

Heg. 主宰 「ポジティ部」「クリエイティ部」 主将。

#### 宮本 拓海さん

フリーランス／企画・編集・執筆

1994年生まれ。岩手県奥州市出身。2019年よりフリーランスとして活動中。

---

松嶺 楽しいですね。

三田 「アーティストは時代と添い寝しなければならない」とその時喋ってくれて、その言葉が印象に残っています。

松嶺 そうですね。今の流れに沿ったテーマを持って、作品を制作するっていう。そこは大切にしていますね。松沢さんの漆を塗らせていただいたコラボ作品も制作させていただきました。

松沢 面白かったですよね。現在進行系ではありますけど、いろんな「これ塗ってくれ」っていう、今まで売ったことないものを提案していただきました。

金野 技術的にはどうなんですか？新しい発見があったり？

松沢 技術的にはまあできるんですけど、岩手では昔からあんまりやらないですよね。浄法寺塗とか、漆器中心の作家さんが多い中で、フィギュアとかに漆を塗るっていうのはあんまり誰もやっていなくて。

金野 ないですよね。だからこそ面白いんですよね。松嶺さんの的にも。

松嶺 はい、そうですね。

松沢 フィギュア自体が独創的なものなので。そこにさらに漆を塗るのはなかなかないですね。

松嶺 現代的なシルエットとデザインのものに、漆を塗って仕上げをしていく。だいたい今化学塗料を塗ってきれいに仕上げちゃうんですけど、松沢さんにお会いして、蒔絵職人の大川さんにお会いしていろいろお話を聞いたときに、この技術は使わない手はないなと。

松沢 松嶺さんとお会いして、うちで今までやったものを紹介したんですけど。伊藤若冲のハンドル。展示で飾っていますけど、あれがすごいとなって、それを作った職人さんを紹介して、いろいろ繋がっていったという感じですね。

松嶺 岩手出身の方で、石川の輪島で蒔絵を修行された方がいて。その蒔絵の技術がすごいんですよ。

三田 あの、40代の方ですか？

松沢 そうです。40代。

三田 すごい細かいこともできる。

松嶺 勝手に人間プリンターだって呼んでるんですよ。

---

11月13日は「うるしの日」。

1 へ～！

別名「うるし寺」と呼ばれる虚空蔵法輪寺が京都にあり、毎年法要が行われています。五十五代文徳天皇の第一皇子である推古親王（これたかしのう）が法輪寺にこもり祈願したところ、虚空蔵菩薩から漆器製造法を伝授されたと言われます。その満願の日が11月13日なのです。